

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育実践演習	〔授業の種類〕 演習	〔授業担当者〕 大城 克也
〔授業の回数〕 15回	〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)	〔配当学科〕 こども未来学科
〔配当学年・時期〕 2年次 後期		
〔授業の目的・ねらい〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ・ 保育に関する課題についての現状分析、考察、検討を行う。 〔授業全体の内容の概要〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める。 〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必修科目及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士としての必要な知識・技能を修得したことを確認する。 		
コマ数	授業のテーマ	授業の内容
1	・ 授業のねらいや目標についての確認	・ 保育実践演習の意義と進め方について
2	・ 卒業発表会のグループ作り	・ 卒業発表会に向けてグループを作り、教材研究を行って発表内容を決める。
3	・ 卒業発表会の内容について話し合う	・ 事例を通して保育相談支援の方法や技術を学ぶ DVD鑑賞「保育所の地域子育ての支援」
4	・ 卒業発表会の招待カード、ポスターの作成	・ 保護者や非常勤の先生、地域の保育園や児童館に呼びかける招待カードとポスターの作成をする。
5	・ 卒業発表会の招待カード、ポスターの作成	・ 保護者や非常勤の先生、地域の保育園や児童館に呼びかける招待カードとポスターの作成をする。
6	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
7	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
8	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
9	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
10	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
11	・ 各グループで卒業発表会に向けての取り組み	・ 各グループで集まり、練習や衣装作りを行う。
12	・ 卒業発表会	・ 卒業発表会終了後、振り返りを行う。 ◎卒業発表会に向けて2度程、リハーサルを行う。 ◎各グループに分かれて取り組み発表を行う。
13	・ 卒業発表会	
14	・ 卒業発表会	
15	・ 卒業発表会	
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕
〔参考文献〕 幼稚園教育要領 保育所保育指針解説		1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法: 課題発表、レポート等提出物

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] 保育実習事前指導Ⅲ		[授業の種類] 演習	[授業担当者] 仲宗根 由美・大城 克也
[授業の回数] 8回	[時間数](単位数) 15時間(1単位)	[配当学科] こども未来学科	[配当学年・時期] 2年 前期
<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習Ⅰ(施設)や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。また、保育士の専門性と職業倫理について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 指導案作成の方法を深める為にグループ討議や演習を行い、実際の保育計画を立てる。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 実習生としての職業倫理が理解できており、施設の特徴、保育目標とそれを達成するための保育士の心構え・安全配慮、生活介助の意味等が実践、考察できるようになる。</p>			
コマ数	授業のテーマ	授業の内容	
1	保育実習Ⅲの目的と 保育実習Ⅰの課題整理	保育実習Ⅰの成果と反省・課題を明確にする 保育実習ⅠとⅢの違いについて確認する	
2	施設についての理解	配属実習施設についての理解 (目的・機能・現況・課題等) 児童養護施設、障害児者施設等	
3			
4	保育士とソーシャルワーク	子どもや利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を理解する。	
5	施設内の生活環境、衛生、安全管理	施設内の生活環境、衣食住環境の工夫、健康管理と医療も感染症に対する対応法 危機管理とリスクマネジメント	
6	保育の専門性と職業倫理	実習Ⅰで学んだ保育の専門性に加え、職業倫理についての理解を深める。	
7	自立(個別)支援計画の作成	支援内容を吟味し、支援計画を立てる。	
8	実習直前指導	オリエンテーションなどで確認した実施優内容について報告 実習目標と計画確認	
[使用テキスト・参考文献] ・保育所保育指針 ・自主資料 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		[単位認定の方法及び基準] 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:発表、レポート等提出物	
[参考文献] ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック			

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] 保育実習事前指導Ⅱ		[授業の種類] 演習		[授業担当者] 仲宗根 由美・大城 克也	
[授業の回数] 8回		[時間数](単位数) 15時間(1単位)		[配当学科] こども未来学科	
				[配当学年・時期] 2年次 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることで保育の理解を深める。 ・既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる保育を理解する。 ・指導案作成の方法を深める為にグループ討議や演習を行い、実際の保育計画を立てる。 <p>[授業終了時達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の保育を実践に実践し、保育士として必要な資質・技術を習得する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解したうえで実習に取り組む。 					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	事前指導ガイダンス		・保育実習Ⅰの振り返りと授業概要の説明		
2	保育実習Ⅰの振り返り (園からの評価 実習簿の確認)		・園からの評価を学生に伝え、自分自身の課題を明確にする。 ・実習簿を読み返し誤字、脱字等を調べる。		
3					
4	指導案作成		・責任実習に向けてグループで設定保育の内容を考え、指導案を作成する。		
5	模擬保育実践		・実際に保育実践を行う		
6					
7	実習Ⅱに向けての課題		・保護者支援、食育、障害児保育等、課題に向けて学び、自身の課題を確認していく。		
8	実習Ⅱに向けての最終確認		・実習生としてのマナーの再確認/提出物の最終確認		
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・自主資料 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 			<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物 		
[参考文献]					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック 					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育実習事後指導Ⅱ		〔授業の種類〕 演習	〔授業担当者〕 仲宗根 由美・大城 克也
〔授業の回数〕 8回	〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)	〔配当学科〕 こども未来学科	〔配当学年・時期〕 2年 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの方見点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ・既習の教科や保育実習1の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養護と教育が一体となって行われる保育を理解する。 ・自身の課題(保護者支援、五領域、食育等)についてまとめ発表を行う。 <p>〔授業終了時達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。 			
コマ数	授業のテーマ	授業の内容	
1	実習の振り返り	・自己評価及び実習振り返りシートを記入し発表する	
2			
3	保育実習の課題のまとめ	各自、実習を行う再立てた課題(5領域、保護者支援、食育)についてまとめる	
4	実習報告会に向けてのパワーポイント作成	各自、実習についての資料作成	
5			
6			
7	実習報告会の及び保育実習Ⅱまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の発表や質疑応答等を通して、園における活動や保護者支援の在り方等について学びを深める。 ・事後指導を通して実習の総括を行い、新たな課題や目標とする保育者像を明確にする。 ・「保育実習Ⅱを振り返って」というテーマでレポートを作成する。 	
8			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕	
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・自主制作資料 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:発表、レポート等提出物 	
〔参考文献〕			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の学びスタートブック ・保育園の実習完全マニュアル 			

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育実習Ⅲ	〔授業の種類〕 実習	〔授業担当者〕 仲宗根 由美・大城 克也
〔授業の回数〕 11日間(88H)＋オリエンテーション(2H)	〔時間数〕(単位数) 90時間(2単位)	〔配当学科〕 こども未来学科
〔配当学年・時期〕 2年 前期		
〔授業の目的・ねらい〕 児童福祉施設(保育所以外)の役割や可能について実践を通して理解を深める。 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。		
〔授業全体の内容の概要〕 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などについて実際に取り組み、理解を深める 養護と教育が一体となって行われる保育を理解する。		
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 施設での保育を実践に実践し保育士として必要な資質・技術を習得する 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。		
	授業のテーマ	授業の内容
		各自11日間実習を行う
〔使用テキスト・参考文献〕 ・保育園の実習完全マニュアル ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物	
〔参考文献〕 保育の学びスタートブック		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育実習Ⅱ		〔授業の種類〕 実習		〔授業担当者〕 仲宗根 由美・大城 克也	
〔授業の回数〕 11日間(88H)＋オリエンテーション(2H)		〔時間数〕(単位数) 90時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める こどもの観察やかかわりの視点を名確認することを通して保育の理解を深める 既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、こどもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などについて実際に取り組み、理解を深める 養護と教育が一体となって行われる保育を理解する。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>保育所の保育を実際実践し保育士として必要な資質・技術を習得する 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。</p>					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
〔使用テキスト・参考文献〕 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:実習評価		
〔参考文献〕 ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育・教職実践演習		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 宮川 名子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期/後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 これまで学んできた学習知と教育実習等で得られた指導力や実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任に裏付けされた確かな実践的指導力を身につけた「学級担任ができる」人材を育てる。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 教職、学級経営の意義について理解し、特別支援教育の基礎と特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応方法を理解する。また、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を踏まえ、子どもの育ちを支える教師・保育士のあり方を学ぶ。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師・保育者に求められる資質や能力、学級担任の役割について理解する。 ・特別支援教育の理念と制度を踏まえ、特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応の仕方を学ぶ。 ・保育における集団の編成、小学校教育との接続について理解する。 					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1			理論を振り返り、講義内容説明する。		
2	教師という職業		教職の意義、教師に求められる資質と能力、研究・研修の必要性を理解する。		
3	学級と学級経営		学級、学級経営の位置づけを理解し、学級担任の役割を学ぶ。		
4	学級経営案の作り方		学級経営作成上の留意点を踏まえ、実際に作成し発表する。		
5	特別支援教育の基礎		発達障害の諸障害および知的障害について理解する。		
6	特別支援教育と教師・保育者		特別な教育ニーズをもつ子どもと保護者への対応方法を学ぶ。		
7	保育における集団の編成		異年齢保育、統合保育について理解し、幼児教育の将来的展望を考える。		
8	小学校教育との接続		幼稚園・認定こども園・保育所・小学校の教師・保育士の連携について学ぶ。		
9	学級経営		学級経営における臨床場面での教師の対応（ロールプレイング）		
10	保育現場での対応		課題のある子どもの事例研究を行う。		
11	集団討論		教育課題の解決への教師としてのアプローチ		
12	保育計画		保育計画を作成し、模擬保育を行う。		
13	統合保育		統合保育、異年齢保育に関わる課題と展望		
14	保幼小連携		子どもの生活変化を踏まえた適切な指導の在り方		
15	学習のまとめ		自己の振り返り、今後に向けての課題を行う。		
〔使用テキスト・参考文献〕 保育・教職実践演習（豊岡短期大学）			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕 幼稚園教育要領 保育所保育指針解説			<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:課題発表、レポート等提出物 		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 発達障害児論		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 緒方 茂樹	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 自閉症スペクトラム障害 (ASD) をはじめとする発達障害について、その障がい特性と具体的な対応について理解する。		〔配当学科〕 こども未来学科		〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
〔授業全体の内容の概要〕 ノーマライゼーションなど障がい理解の基礎をまず再確認する。国際診断基準などに基づいた各発達がいの特性と対応について、事例研究あるいは演習などを通じて学ぶ。発達障害を支援するために多様な学び場と教育課程が用意されていることを知る。ライフステージを意識しながら、具体的な事例を基に発達障害への療育と教育、さらには社会自立について理解する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 複数の発達障害の種別について、それぞれの障がい特性を個別に理解でき、それに基づいた保育現場における具体的な子どもへの対応の留意点と方法を考えることができる。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	障がい理解の基礎	障がいに対する基本的な見方・考え方を再確認する			
2	こころとからだの面から見た基礎理解	障がい理解の基礎となる心理学的(適応機制他)・生理学的(機能局在他)所見について学ぶ			
3	ノーマライゼーションの考え方	発達障がい児理解の基本であるノーマライゼーションとインクルーシブ教育についてその詳細を学ぶ。			
4	合理的配慮と基礎的環境整備	インクルーシブ教育の基礎となる合理的配慮・基礎的環境整備の詳細について学ぶ。			
5	発達障がいの概要とその理解	国際診断基準について知り、MBDに始まる発達障がいの診断基準の変遷について学ぶ。			
6	発達障がいへの療育	自閉症スペクトラム障がい(ASD)への療育の実際としてTEACCHの療育方法について学ぶ			
7	発達障がいへの教育	AD/HDに対する教育を、小学校における事例研究を通して学ぶ			
8	発達障がいへ自立・社会参加	LDの予後について、実際に自立し社会復帰を果たした事例を通して学ぶ			
9	発達障がいへの対応の実際	発達障がいの事例について、VTRを通じてその対応について具体的に学ぶ			
10	発達障がいに対する教育課程	発達障がいの教育に必要な自立活動などの教育課程について学ぶ			
11	発達障がいのための学びの場と就学支援	発達障がいの受け皿となる通級指導教育などの「多様な教育の場」と就学支援について学ぶ			
12	発達障がいへの個別の教育支援計画と指導計画	発達障がいを支援するための、個別の教育支援計画と指導計画の実際について学ぶ			
13	発達障がいに類似した特別なニーズを有する子ども	外国に繋がる子どもなど、発達障がいに類似した特徴を示す特別なニーズを有する子どもについて学ぶ			
14	発達障がいの保護者・家族への支援と障がいの内容	保護者あるいは兄弟等の家族支援と障がい受容の過程について学ぶ			
15	まとめと振り返り	ディスカッションを中心とした演習形式で、これまで学んできた内容のまとめと振り返りを行う			
〔使用テキスト・参考文献〕 特別なニーズを有する子どもの育ちと学びを支えるために/ スライドデッキ(事前配布)		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験			
〔参考文献〕 よくわかる障がい児保育/ミネルヴァ書房					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 特別支援教育		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 比嘉 大輔	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 特別な教育ニーズのある子どもを含めたすべての子どもが幼稚園・保育所の中でそれぞれの自主性・自発性を発揮し生きる力の基礎を培えるようにするため、特別な教育的ニーズのある子どもの生活等における困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 特別な教育的ニーズを持つ子どもを支援するにあたって、子ども自身の特性を理解するのはもちろん、子どもを支援するために必要な社会的資源や関係機関についての知識、個別の教育支援計画の作成方法とその利用方法、教育課程と学びと生活の在り方についても理解を深めるよう、特別支援教育に関わる幅広い内容を示す。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 特別な教育的ニーズを理解し、具体支援方法や留意点を表現できる。 特別支援教育の対象となる子どもの支援方法について説明できる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	特別な教育的ニーズを持つ子どもへの教育課程		特別な教育的ニーズとは何か 特別支援教育課程と学びの場		
2	発達障がいや軽度知的障害を持つ子どもの特性		発達障害や軽度知的障害の心と体の育ち 子ども一人ひとりのニーズに合わせた学び		
3	視覚障害・聴覚障害・知的障害、肢体不自由、病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性		多様な子どものニーズの理解 多様な子どもの学びと生活		
4	子どものニーズに合わせた支援		教育過程における支援 通常の学級における担任による支援		
5	教育チームによる組織的支援		個別の指導計画及び個別の支援計画 アセスメントに基づく計画と評価		
6	特別支援教育コーディネーター		特別支援教育コーディネーターの役割 外部教育資源との連携と協働		
7	保護者・家庭支援と連携		保護者・家庭を取りまく問題 保護者・家庭とのつながりの重要性		
8	特別な教育的ニーズ		母国語や貧困の問題等による教育的ニーズの理解及び支援		
〔使用テキスト・参考文献〕 子どもの健康と安全演習ノート/診断と治療社			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕			1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 障がい児保育		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 緒方 茂樹	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 各種障がい種別毎に、その障がい特徴と保育における具体的な対応について理解する。					
〔授業全体の内容の概要〕 インクルーシブ教育・保育の理念に基づいて、国際診断基準などに基づいた各種障がいの特徴と対応について、事例研究あるいは演習などを通じて学ぶ。特別なニーズを有する子どもを支援するための基礎的なアプローチを知り、具体的な事例を基に地域支援ネットワークについて学ぶことを通じて、関係諸機関との連携の重要性についても理解する					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 各障害の種別について、それぞれの障害特性を個別に理解でき、それに基づいた保育現場における具体的な子どもへの対応の留意点と方法を考えることができる					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	障がい児保育の歴史	障がい児保育・特別支援教育の歴史の変遷について学ぶ			
2	早期発見・早期対応と療育	特別なニーズを有する子どもの早期発見・早期対応の重要性について、乳幼児健康診断の観点も踏まえて学ぶ			
3	定型発達の考え方	子どもの定型発達について知り、定型発達の視点に基づいた子ども理解の重要性について、障害理解の観点から学ぶ			
4	子どもの発達評価の実際	沖縄県児童票スタンダード「ひまわり」を用いてアクティブラーニング形式で定型発達と発達評価について学ぶ			
5	知的障がいの特性とその対応	知的障がい(ダウン症含む)について、その障がい特性と保育における対応の在り方について学ぶ			
6	聴覚・言語障がい、視覚障がいの特性とその対応	聴覚・言語障がい、視覚障がいの特性とその対応の在り方について学ぶ			
7	肢体不自由、重度重複障がい、難病の特性とその対応	肢体不自由、重度重複障がい、難病の特性とその対応の在り方について学ぶ			
8	発達障害(AD/HD)の特性とその対応	発達障害(AD/HD)の特性とその対応について詳細に学ぶ			
9	発達障がい(LD)の特性とその対応	発達障がい(LD)の特性とその対応について詳細に学ぶ			
10	発達障がい(ASD)の特性とその対応	発達障がい(ASD)の特性とその対応について詳細に学ぶ			
11	発達障害のある子どもの理解	ASDの知覚認知特性についてアクティブラーニング形式で体験し、その特性を学ぶ			
12	組織・地域で特別なニーズを有する子どもを支える	子どもを中心とした関係所機関について知り、人的・物的リソースの活用について学ぶ			
13	子どもを中心とした地域支援ネットワーク実際	地域における支援ネットワークの実際を事例として素愉快しながら、保育園、こども園のある地域に存在するリソースを知ることの重要性を学ぶ			
14	事例研究「仮想事例りょうくんの成長を追って」	仮想事例の成長を追いながら、それぞれの発達段階に応じた保育の在り方について復習する			
15	まとめと障がい児保育の今後の課題と展望	アクティブラーニング形式で、これまでの学びを振り返り、今後の障がい児保育に向けた課題と展望を明らかにする			
〔使用テキスト・参考文献〕 特別なニーズを有する子どもの育ちと学びを支えるために/ スライドデッキ(事前配布)		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験			
〔参考文献〕 よくわかる障がい児保育/ミネルヴェ書房					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 社会的養護 II		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 大山 望	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 社会的養護を受ける子どもの現状及び養護内容を理解し、適切な自立支援の方法を理解する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 各児童施設の養護内容の理念を前提にした支援・援助をビデオ視聴。ディスカッションなどを通して具体的にあり方を学習できるようにする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護におけるこどもの最善の利益の意味を理解した支援・援助について具体的に学ぶ。 ・社会的養護を通して、家庭支援、児童福祉、地域支援(福祉)などについて理解や認識を深める。 					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	社会的養護の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護の意味と権利擁護を担う児童福祉施設の指名を学習する。 ・子どもの権利擁護を踏まえた保育士などの倫理及び責務 			
2	社会的養護の実施体系	<ul style="list-style-type: none"> ・施設養護と里親制度の特性および特徴 			
3	支援の計画と内容及び事例分析①	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的養護における理念と原理を学習する。 ・施設入所に至るケアの理解と情報共有の在り方、自立支援計画 			
4	支援の計画と内容及び事例分析②	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援計画の意義と作成 ・施設における生活支援などと規則について(施設での規則の必要性有無について話し合う) 			
5	支援の計画と内容及び事例分析③	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事例分析を通して学習する。 ・家族再構築の実際の事例を通して学習する。 			
6	支援の計画と内容及び事例分析④	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援から被虐待児の心理的ケアを考える 			
7	支援の計画と内容及び事例分析⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・自立に向けたアフターケアの支援を学習する。 ・記録及び自己評価 			
8	社会的養護に係る専門的技術 社会的養護の今後の課題と展望	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士、ソーシャルワークなどの専門性に係る知識・技術とその応用 ・記録の意味と自己評価について ・児童施設の小規模化及び家庭的養護について学習する。 ・厚生労働省(社会的養護専門委員会とりまとめ)から学習する 			
〔使用テキスト・参考文献〕 自主作成資料		〔単位認定の方法及び基準〕			
〔参考文献〕		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験 			

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 子育て支援		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 真栄城 かの子	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
〔配当学年・時期〕 2年次 前期					
〔授業の目的・ねらい〕 保育の専門性を活かした子育て支援を学ぶ					
〔授業全体の内容の概要〕 保育所保育指針に示されている子育て支援を理解した上で、支援の実際について学ぶ。保育者として必要な子育ての知識や保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、虐待の防止、保護者支援のために必要な保育技術や制度、政策、専門機関との連携等、こどもの幸せを念頭に置き、保育者として理化しておくことを演習などを通して学ぶ。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 子育て支援の意義と原則について理解し、保育者の使命感や倫理観を確かなものにする。 保育士が保護者に対して行う専門性を背景とした保育相談支援について、その特性と展開について理解する。 子育て支援の内容と方法及び技術を実践事例などを通して具体的に理解する。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	子育て支援の意義・機能	子育てし支援とは、保護者に対する子育て支援の意義			
2	子育て支援の原則(原理原則)	保育の特性と保育士の専門性を活かした支援、子供や保護者に対する支援の基本			
3	子育て支援の実際	保育所における子育て支援。特別な配慮を要する子どもと家庭給の支援。要保護児童に対する支援。その他の児童福祉施設における子育て支援			
4	子育て支援の展開	支援計画→実施→終結までの過程を理解する			
5	支援の方法と技術	子育て支援の方法、技術について学ぶ。 支援の方法と技術「保育技術」「保育相談支援技術」等			
6	保護者とのコミュニケーションスキルを高める	保護者とのコミュニケーションをとるための環境作り 演習課題を基にグループディスカッションを行い発表する			
7	保育カウンセリングについて	カウンセリングの基礎知識を学ぶ(技法)			
8	ロールプレイ	いくつかの事例をグループに分かれて話し合う。 ニーズに合った支援の検討 保護者と保育士の立場になってロールプレイ			
〔使用テキスト・参考文献〕 新・基本保育シリーズ「子育て支援」 保育所保育指針、保育所保育指針解説		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験			
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 教育実習(幼稚園)	〔授業の種類〕 実習	〔授業担当者〕 宮川 名子
〔授業の回数〕 20日間	〔時間数〕(単位数) 160時間(4単位)	〔配当学科〕 こども未来学科
〔配当学年・時期〕 2年次 前期		
〔授業の目的・ねらい〕 各幼稚園での教育実習を通じて、保育内容・方法、保育者の役割などをこどもとかかわりながら学ぶ。		
〔授業全体の内容の概要〕 各幼稚園での指導を受け、保育観察・保育参加・責任実習などを行い、幼児理解をはじめ、実習記録の取り方、保育指導案の作成など、保育の実際を学ことにより、使命感や責任感を持って規養育実践出来能力を身につけることを目的とする。		
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 各幼稚園での教育実習を通じて、保育者としての役割について認識を深め、確かな学級運営力、保育指導力、保育としての資質を身につける。		
コマ数	授業のテーマ	授業の内容
〔使用テキスト・参考文献〕 幼稚園教育要領解説 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物
〔参考文献〕		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 沖縄の伝統文化 I・II		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 喜友名朝太郎・宮城萌枝	
〔授業の回数〕 16回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 沖縄において広く親しまれている沖縄の伝統文化や芸能。その要素であるエイサーや三線(さんしん)の技法を学ぶとともに、歴史の中で培われてきた文化・芸術を理解する学習とする。また、脈々と受け継がれてきた地域の「伝統と文化」を学ぶことは、次世代への伝統文化を継承していく働きかけであり、それは人々・地域のつながりを感じる豊かな感性やアイデンティティ形成など、こどもの発達につながっていることを理解する学習機会とする。					
〔授業全体の内容の概要〕 エイサーや沖縄音楽の歴史、楽器の由来・取り扱い方を概説するとともに、代表的な演舞、琉球古典音楽または民謡の課題曲の修得を指導する。各分野においては専門講師を招聘するオムニバス形式で運営する。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ①エイサーは、課題曲(2～3曲)を習得できる。踊りながらフェーシも言う事ができる。 ②さんしんは、課題曲(1曲)の意味を理解し、1節を独奏で弾き語りすることができる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	エイサーの歴史と基礎知識①		エイサーの歴史、太鼓の持ち方等を学ぶ。		
2	エイサーの歴史と基礎知識②		簡単なりズムの曲で基本的な技法を学ぶ。		
3	エイサーの基礎 課題曲①		「課題曲①」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。		
4	エイサーの基礎 課題曲②		「課題曲②」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。		
5	エイサーの基礎 課題曲③		「課題曲③」 基礎的な演舞法と演奏法を習得する。		
6	課題曲の通し稽古		全員で課題曲をつなげて演舞することを学ぶ。		
7	実技試験・科目のまとめ		3曲予定(進行状況で変更可)		
8					
9	沖縄音楽の歴史と三線の基礎知識①		沖縄の歴史の中で三線の位置やその変遷について学ぶ。 沖縄の文化とウチナーチユのアイデンティティについて理解する。		
10	沖縄音楽の歴史と三線の基礎知識②		三線の構えなどの基礎奏法を学ぶ。 ○楽器の取扱い方・各部の名称○基本姿勢・ウマ・指使い・パチ ○音階・調子・楽譜(工工四)の読み解き方		
11	三線の基礎 課題曲① //		「課題曲①」を中心に三線の基礎奏法と基礎歌唱法を習得する。		
12					
13	三線の基礎 課題曲②		「課題曲②」を中心に三線の基礎奏法と基礎歌唱法を習得する。		
14					
15	実技試験・科目のまとめ		学生が課題曲を単独演奏で弾き語りを行う。沖縄音楽の歴史を学ぶこと、伝統文化継承の意義を理解する。		
16					
〔使用テキスト・参考文献〕 自主制作資料			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 実技試験		
〔参考文献〕					

授業概要

【2022年度】

〔科目名〕 ビジネスマナー		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 新垣 さとみ	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 働く意義や働く上でなぜビジネスマナーが必要なのか？を理解し、ビジネスマナーの基本、社会人としての心構え、接客と接遇の違い、人間関係の5原則、コミュニケーション理論を理解することを目的とする(意識して実践すること)。					
〔授業全体の内容の概要〕 ■会社員として働いた実務経験豊並びに人材育成講師業の実務経験を活かし、様々なエピソード(保育士職員研修など)を伝えながら働く意義を掘り下げることの大切さ、ビジネスマナーやコミュニケーション理論を意識して実践することは、全て学びだと捉え、人間関係豊かで働くことが楽しくなるイメージになるようすすめていきます。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 1. 敬語の種類と使い分けの基本ポイントを理解する。 2. 電話対応、コミュニケーションマナーを理解する。 3. 上記1・2を理解し、意識して実践を続けることで自己成長につながるイメージができる。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	目的と評価方法の共有 コミュニケーションと第一印象の法則	コミュニケーションワーク・セルフワークを行い、今の自分と向き合う。人間関係の5原則及びコミュニケーションの4つの特徴を知り理解する。			
2	コミュニケーションと第一印象	1日目の振り返り、コミュニケーション理論、第一印象の法則、メラビアンの法則を理解するためのワークを通して、3日目以降に学ぶ内容を意識し、実践することの大切さを理解する。			
3	敬語の基本①	敬語の種類と使い方のポイントを学び、練習問題を実施。また普段よく使う言葉を敬語に変換させるトレーニングを行う。			
4	敬語の基本②	前回の復習及び敬語を意識して使ったロールプレイング(グループワーク)。			
5	電話対応の基本①	電話対応の重要性、一般的な電話対応基本パターン3つ、保井育園・幼稚園職員として保護者にかける時の基本マナー、気をつけるべきこと、よく間違っている言葉を知る。			
6	電話対応の基本②	前回の復習、ロールプレイング			
7	評価テスト	評価テスト実施			
8	これまでの振り返り・科目のまとめ	働くことは「人の繋がり」＝コミュニケーション力を磨き高め続けること コミュニケーションを磨き高め続けるには コミュニケーション理論と4つの特徴、印象の法則、メラビアンの法則 ビジネスマナーもあわせて意識し、日々の実践につなげ 毎日1つでも多くの気づきを得ることの大切さを理解する。			
〔使用テキスト・参考文献〕 自主制作資料		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:レポート・筆記試験			
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 チャイルドケアⅡ	〔授業の種類〕 演習	〔授業担当者〕 平田 千悦子・仲間優子
〔授業の回数〕 15回	〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)	〔配当学科〕 こども未来学科
〔授業の目的・ねらい〕 保育者として重要な環境構成や保育技術など実践を通して学び、実習等に活かせるようにする。		
〔授業全体の内容の概要〕 ■保育士・幼稚園教諭の実務経験がある教員がその経験を活かして、実践的な保育技術の指導を行う科目である。 エプロンシアター、模擬保育等、演習授業を通じて様々な保育技術を習得する。		
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ボランティアや実習で、自信を持って子ども達と関わることができ、様々な保育技術を実践できるようになる。		
コマ数	授業のテーマ	授業の内容
1	エプロンシアターを作成する。	・エプロンシアター製作で計画表を立案する(提出期限告知)。 ・エプロンシアターの基礎的な製作方法を理解する(ブランケットステッチのやり方など)
2	保育のマナーについて	・保育のマナーについて演習を通して学ぶ(礼儀作法、言葉遣い、書き言葉についてなど)
3	模擬保育を行うための指導案計画を立てる 模擬保育を行うための指導案作成をする	・1グループ3人で模擬保育を行うため、指導案計画を立てる(製作系、運動遊び系、リズム遊び系などを決める)。 ・指導案作成の書き方を学ぶ。 (提出期限を決める)
4		
5		
6	模擬保育を行う	各自模擬保育を行う
7		
8		
9	模擬保育反省会	・模擬保育を振り返り、話し合う。また、課題点をまとめて今後の作成に活かすようにする。
10		
11	エプロンシアター発表会	一人ひとり、作成したエプロンシアターを全員の前で発表する。
12		
13		
14	エプロンシアター実演の振り返り	各自実演を終えての振り返りを行う。課題や問題点をまとめて今後にかかしていく。
15	授業のまとめ	まとめ
〔使用テキスト・参考文献〕 自主制作資料		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:出席状況 10%、制作物 60%、発表内容 30%を総合的に評価する。

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こども家庭支援の心理学		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 山本 雅子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 生涯発達についての心理的知識を習得する。家庭・家族の意義、家族関係について理解し、支援について学ぶ。					
〔授業全体の内容の概要〕 心理学的視点から生涯発達について理解し、初期発達の重要性及びライフサイクルについて深く理解する。 子育てで家庭を取りまく現状を知り、支援のあり方を理解していく。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 人間関係の生涯発達についての心理学的基礎を習得する。家庭や家族の意義・機能を理解する。 子育てをめぐる社会的状況と課題について理解し説明できる。					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	生涯発達①		乳児期～高齢期に至る心理学的な生涯発達について		
2	生涯発達①				
3	生涯発達①				
4	生涯発達①				
5	生涯発達①				
6	生涯発達①				
7	家庭・家族について		家庭や家族の意義と機能について		
8	家族関係について		家族や親子の関係について		
9	親理解について		子育ての経験と親としての育ちについて		
10	子育てに関する社会的状況		こどもや家庭を取りまく社会的な状況について		
11	ライフコースについて		ライフコースと仕事・子育てについて		
12	多様な家庭		多様な家庭のあり方について		
13	子育て支援に係る特別なニーズ		特別な配慮を要するこどもと家庭について		
14	こどもの発達と環境		こどもの生活や生育環境について		
15	こどものこころの健康		こどもの精神保健について		
〔使用テキスト・参考文献〕 「新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学」 白川佳子・福丸由佳編/中央法規出版			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験		
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] こどもの理論と方法		[授業の種類] 演習		[授業担当者] 古見 花梨	
[授業の回数] 15回		[時間数](単位数) 30時間(2単位)		[配当学科] こども未来学科	
				[配当学年・時期] 2年次 前期	
<p>[授業の目的・ねらい] 子どもの理解する視点や方法を確認し、相談援助の実際についても学びを深める</p> <p>[授業全体の内容の概要] 子どもを理解する具体的な方法、相談支援を行う上で必要なカウンセリングマインドの獲得を行う</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] 子どもや保護者への相談支援の基本を獲得する</p>					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	「子どもを理解する」とはどうか			
2	相談支援の基本	カウンセリングの基本姿勢について			
3	子どもを理解する視点	社会的背景について			
4		保育環境について			
5	子どもを理解する方法	具体的方法について			
6		評価について			
7		情報共有について			
8	子どもの自己理解を進める技法	自己理解について			
9	幼児・こども理解とカウンセリングマインド	カウンセリングマインドについて			
10	幼稚園・保育園における園児への心理的援助	保育カウンセリングについて			
11	小学生における児童への心理的援助	カウンセリングの実際			
12	相談支援の実際	支援内容について			
13					
14	家庭・学校・地域との連携	つながり方について			
15	相談支援の課題と対応	支援目標についての考え方			
[使用テキスト・参考文献] こどもの理解と相談支援/豊岡短期大学		[単位認定の方法及び基準]			
[参考文献]		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験 			

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもの保健		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 知念 菜穂子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 ・ こどもの身体的発育・発達段階を理解し、保育実践に活かす ・ こどもを取りまく多様な環境を理解し、他者との連携を取りながら保育を行うことができる。					
〔授業全体の内容の概要〕 ・ 小児保健の意義を理解し、個々の発達段階における、身体的、生理的、社会性を踏まえた精神機能の発達について学ぶ ・ こども保健衛生活動に関する機関・施設の役割について理解する					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 ・ こどもの心身の健康増進を図る保健活動について理解し、現代におけるこどもの健康に関する現状と問題について考えを持つ。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	こどもの心身の健康と保健の意義	こどもの健康の概念			
2	保健活動の意義	こどもの健康指針 現代社会における、こどもの健康に関する現状と課題			
3	地域における保健活動と虐待防止	沖縄の現状と「保健活動」及び「虐待防止」について			
4	こどもの身体的発育・発達と保健	身体的発育、運動機能の発達 生理的機能の発達状況			
5	こどもの心身の健康状態	健康状態の観察、心身の不調等の早期発見、発育・発達の把握			
6	障害のあるこどもへの対応	保護者との連携と共有			
7	こどもの病気の予防と適切な対応	主な病気の特徴、病気の予防と適切な対応			
8	感染症対策	主な感染症について学ぶ			
9	災害対策	災害対策と事故防止、安全について			
10					
11	健康及び安全管理の実施	職員間の連携・協働を念頭に組織的な取り組みについて			
12	プライバシーの保護・守秘義務	保育者としてのプライバシー保護と守秘義務			
13	保護者に対する子育て支援	保護者との信頼関係及び保育者としての子育て支援			
14	地域との関係機関との連携	沖縄の現状と事例を踏まえてまなぶ			
15	まとめ	まとめ、振り返り			
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの保健/豊岡短期大学 子どもの健康と安全演習ノート/診断と治療社		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点~80点・良(B)79点~70点・可(C) 69点~60点 4. 評価方法:筆記試験			
〔参考文献〕					

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもの食と栄養		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 比嘉 貞子	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 発育・発達をめざましい時期のこどもの食と食背克の知識を学び、こどもが楽しく安心して食事ができ、心身ともに健やかに成長できるよう、保育現場で実践し発展させる力を養うことを目指す。 食に興味・関心を持ち、望ましい食生活の実践ができる保育士を目指す。					
〔授業全体の内容の概要〕 こどもの食生活は、健全な発育・発達に大きく影響を与えるため、栄養に関する基礎知識、各小児期の栄養・食生活の特徴、食育の重要性、食物アレルギーの対応等についての講義と幼児食の調理実習を行う					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 こどもの栄養と食生活の意義を理解し、こどもの発育・発達段階に応じた望ましい食生活の知識、食事支援の方法を習得する。 現在のこどもの食生活の現状と課題について理解し、食育の重要性、内容を理解する 特別な配慮を要するこどもの食時と栄養を理解できる					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	こどもの栄養と食生活の意義		小児栄養の重要性、小児栄養の特徴		
2	こどもの食生活の現状と課題		食品・栄養素等接種状況、生活リズム、朝食の欠食等		
3	栄養・食生活の基礎知識①		栄養素の種類と機能の概要、炭水化物		
4	栄養・食生活の基礎知識②		脂質、たんぱく質		
5	栄養・食生活の基礎知識③		ミネラル、ビタミン、水分		
6	栄養・食生活の基礎知識④		日本人の食事摂取基準、食事バランスガイド		
7	妊娠・授乳期の栄養と食生活		妊娠前からはじまる妊産婦のための食生活指針等		
8	乳児期の栄養と食生活①		母乳栄養、授乳の支援		
9	乳児期の栄養と食生活②		人工乳栄養、混合栄養		
10	乳児期の栄養と食生活③		離乳期栄養、離乳の支援		
11	幼児期の栄養と食生活①		幼児期の食機能の発達と成長、食事、間食		
12	特別な配慮を要するこどもの食と栄養		疾病、体調不良、植物アレルギー等のある子どもへの対応		
13	幼児期の栄養と食生活②		幼児食と間食(調理実習)		
14	幼児期の栄養と食生活③		幼児食と間食(調理実習)		
15	小児期の栄養教育(食育)		幼児期の食育		
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの食と栄養/豊岡短期大学			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕			1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもの健康と安全		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 知念 菜穂子	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 後期	
〔授業の目的・ねらい〕 保育における保健観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、発達や状況に即した適切な対応について理解する。 こどもの体調不良等に対する適切な対応ができるようになる。 こどもの健康・安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する					
〔授業全体の内容の概要〕 現代社会におけるこどもの健康問題や地域保健活動について理解する。 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害管理について具体的に理解する こどもの体調不良や障害(応急処置・救急処置)に対する適切な対応について理解する					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 こどもの健康と安全に関連する近年のデータやガイドラインを通して、保健的対応を学び発達に即した適切な援助を学ぶ					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助		こどもの健康と保育の環境について こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理		
2	保育における感染症対策		こどもの感染発症時と罹患の子の対応 保育園での集団発生の予防と家庭や関係機関との連携		
3	保育における健康及び安全の管理		衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害の備えについて		
4	個別的な配慮を要するこどもへの対応		保育における保健的対応の基本的な考え方		
5			3歳未満児への対応 個別的な配慮を要する子どもへの対応 障がいのある子どもへの対応		
6	健康及び安全の健康の実施体制		職員間の連携と組織的取り組み		
7			保育における健康活動の計画及び評価 母子保健・地域保健における自治体との連携 家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携		
8	まとめ		保育における保健活動の計画及び評価		
〔使用テキスト・参考文献〕 こどもの健康と安全演習ノート/診断と治療社			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕			1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもと体育	〔授業の種類〕 演習	〔授業担当者〕 宮沢 優紀
〔授業の回数〕 1.5日	〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)	〔配当学科〕 こども未来学科
〔配当学年・時期〕 2年次 前期		
〔授業の目的・ねらい〕 現代のこどもの抱える運動遊びの問題を踏まえ、身体表現活動やこどもの遊びを豊かに展開するための知識や技術を学習し、保育の環境構成及び具体的展開を結びつけていく。		
〔授業全体の内容の概要〕 保育の内容を理解し、体育の基本とその内容及び体育の環境を地域の特色や文化と合わせて理解する。		
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 身体表現活動やこどもの遊びを豊かに展開するための体育の基礎的な知識や技術を理解している。		
コマ数	授業のテーマ	授業の内容
1	運動はなぜ必要か	講義および演習を通して体育の基礎的な知識や技術を学習する。
2	遊びと運動	
3	運動指導のポイント(1)	
4	運動指導のポイント(2)	
5	運動に関わる現代的な課題(1)	
6	運動に関わる現代的な課題(2)	
7	地域の特色や文化を取り入れた遊び	
8	科目のまとめ	
〔使用テキスト・参考文献〕 「子どもと人間関係」 萌文書林		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート・筆記試験
〔参考文献〕		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもと音楽表現Ⅱ(声楽)		〔授業の種類〕 実技		〔授業担当者〕 宮城 萌枝	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 30時間 (1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 保育内容を理解し、弾き歌いや歌唄を通して音楽表現に関わる技術や知識を習得する					
〔授業全体の内容の概要〕 習熟度に応じた個別指導を行う。実践を意識した弾き歌いの練習やグループ練習、ステージ発表を行う					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 テンポを保ちながら曲の流れを止めずに弾き歌いができる。歌詞の意味を理解し、表現豊かに歌うことができる					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1 ↓ 4	オリエンテーション 楽譜コードのよみ方 コードの実践演習 コード・スケールの練習		自己紹介・授業概要の説明・理解度チェックシート 楽譜・コードのよみ方の説明・練習 コード弾きの実践演習(転回系) ドキドキドン！1年生・ドレミの歌をつかったコード・スケールの練習		
5 ↓ 11	とんぼのめがね おべんとう はをみがきましょう		発声練習、とんぼのめがね、おべんとう、はをみがきましょう		
12 ↓ 15	リハーサル		弾き歌いリハーサル		
16	合唱		smile・ドレミの歌の歌詞チェック・音とり練習		
17 ↓ 24	ステージプラン 発表		ドレミの歌、とんぼのめがね、おべんとう、はをみがきましょう		
25 ↓ 29	弾き歌いリハーサル		弾き歌い・試験リハーサル		
30	復習		試験の対策・練習		
〔使用テキスト・参考文献〕 「ポケットいっばいの歌」 「うたえる！ひける！ピアノ曲数②」			〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 実技試験		
〔参考文献〕 おとなのためのテクニックマスター					

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] 保育実習事後指導Ⅲ		[授業の種類] 演習		[授業担当者] 仲宗根 由美・大城 克也	
[授業の回数] 8回		[時間数](単位数) 15時間(1単位)		[配当学科] こども未来学科	
				[配当学年・時期] 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・利用者の観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画について理解し、どのように活用しているか学ぶ。 ・個々の状態に応じた援助や関わりについて学ぶ。 <p>[授業終了時達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習Ⅲ事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にできる。 					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	実習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価及び実習振り返りシートを記入し発表する 			
2					
3	保育実習の課題のまとめ	各自、実習を行う再 に 立てた 課題(5領域、保護者支援、食育)についてまとめる			
4	実習報告会に向けてのパワーポイント作成	各自、実習についての資料作成			
5					
6	実習報告会の及び保育実習Ⅱまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の発表や質疑応答等を通して、園における活動や保護者支援の在り方等について学びを深める。 ・事後指導を通して実習の総括を行い、新たな課題や目標とする保育者像を明確にする。 ・「保育実習Ⅱを振り返って」というテーマでレポートを作成する。 			
7					
8					
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:発表、レポート等提出物 			
[参考文献]					
<ul style="list-style-type: none"> ・保育園の実習完全マニュアル ・保育の学びスタートブック 					

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] 保育の方法(体育) I		[授業の種類] 演習		[授業担当者]	
[授業の回数] 15回		[時間数](単位数) 30時間(2単位)		[配当学科] こども未来学科	
<p>[授業の目的・ねらい] ・子どもの心身共に健やかな発達にとって運動遊びの重要性、楽しさを知り、保育実践に活かす。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・幼児体育に必要な基礎運動、マット運動、跳び箱等の運動遊びの正しい手順の指導、取り組むにあたっての留意点、声掛けや補助の仕方を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・身体を動かすことが楽しいことを保育者として子どもと共に実践でき、運動遊びがもたらす効果を理解した保育ができる。 「幼児体育指導者2級取得」</p>					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	オリエンテーション・授業のねらいについて 運動遊びの重要性	子どもの発達に合った運動遊び、重要性を理解する。			
2					
3	基本動作 / 体操	保育園における基本動作や手具を使った運動遊びを実践し、年齢に応じた遊びを理解する。			
4					
5					
6	ボールを使った指導方と遊び	ストレッチ、リラックス方法、クールダウン、水分補給など配慮事項を学ぶ。			
7					
8	振り返り	基本動作のテスト(実技)、運動遊びの重要性についての評価を行う。			
9	「幼児体育指導者検定」に参加	<p>「幼児体育指導者2級」取得を目指し、講義と実技を受ける。</p> <p>*動きやすい服装で受講 *運動遊びの留意点 *基本動作、体操は毎回行う</p>			
10					
11					
12					
13					
14					
15					
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]			
<p>[参考文献] ・幼児体育(応用編) ・柳沢運動プログラム</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: 筆記試験、レポート等提出物 			

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 保育の方法(制作) I		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あそびや生活体験を生かした保育活動の展開を知る。 ・あそびを通して成長・発達するこどもたちの、年齢や発達にあった玩具を考え制作する。 <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの年齢に応じた遊びや適したおもちゃが理解でき、保育実践に役立てることができる。 ・指導計画案作成上の観点を理解する。 					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	はじめに(授業の説明、展開方法)		<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが主体的に遊びを作り出していくプロセスについて ・制作「マジックスクリーン」 		
2	制作①				
3	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程		<ul style="list-style-type: none"> ・乳児の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「布ガラガラ」 		
4	制作②				
5	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児(2・3歳児)の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「紙皿シアター」 		
6	制作③				
7	おもちゃ(手づくりと既制)と遊びとの関係と発達過程		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児(4・5歳児)の発達の道筋を理解し、実践例を通して援助・あそびについて考える。 ・制作「牛乳パックキューブ」 		
8	制作④				
9	季節感を生かした制作		<ul style="list-style-type: none"> ・季節や行事、配慮すべき物的環境や教材について調べる。 ・制作「風船の張子 風鈴」 		
10	制作⑤				
11	身近な素材を使った玩具を考える		<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場を想定し、身近な素材について教材研究を行い、材料収集。 ・制作「牛乳パックイス」 		
12	制作⑥				
13	身近な素材を使った玩具を考える		<ul style="list-style-type: none"> ・「牛乳パックイス」の完成 ・日頃の感謝を込めて近隣の保育施設へイスのプレゼント 		
14	制作⑦				
15	活動別指導計画の実際と立案・まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・これまで行った制作活動の指導案を立案する。 		
〔使用テキスト・参考文献〕			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕			<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物 		

授 業 概 要

【2022 年度】

[科目名] 保育のスポーツ		[授業の種類] 講義 演習		[授業担当者]
[授業の回数] 16 回	[時間数](単位数) 30時間(2単位)	[配当学科] こども未来学科	[配当学年・時期] 2年 前期	
<p>[授業の目的・ねらい] ・ 保育園における運動遊び（集団遊び、ルールのある遊び等）の進め方や重要性について理解した上で遊びの展開をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] ・ 幼児期における集団遊びやルールある遊びを実践演習を通して学ぶとともに、幼児期の発達段階に応じた運動遊びを考え、保育の現場を想定しながらロールプレイを行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・ 運動遊び（集団遊び、ルールある遊び）を通して子どもの発達（健康面、精神面、社会性等）にどのような影響があるのかを理解したうえで、運動遊びの内容を考えることができる。</p>				
コマ数	授業のテーマ	授業の内容		
1	幼児期の運動	文部科学省・幼児期運動指針。保育園での運動遊び(集団遊びやルールある遊び)の重要性。想定されるけがについて防止と対応		
2	基礎的な運動	(演習) 発達段階を踏まえた基礎的な運動 ケンケン・ジャンプ・スキップなど		
3		(ロールプレイ) 現場実践を想定して		
4		(演習) 大玉ドッジボール・ミニバスケット・障害物競走・じゃんけん列車・創作ゲーム		
5	集団遊び、ルールのある遊び	(ロールプレイ) 現場実践を想定して		
6		(指導案作成) 身近なものを使って創作ゲームを作成。(グループ)		
7		(ロールプレイ) 現場実践を想定して		
8	毎日できる楽しい運動	(演習) 発達段階を踏まえた創作ダンス・リズム体操・キッズヨガ・ストレッチ		
9		(創作) 発達段階を踏まえた動きを取り入れ、ダンスを創作。(グループ)		
10		(ロールプレイ) 現場実践を想定して		
11	園庭・戸外での運動遊び	園庭・戸外での運動遊びの重要性・留意点・安全管理に		
12		(指導案作成) 戸外遊び。(グループ)		
13	固定遊具 戸外遊び(公園)	(演習) ジャングルジム ブランコ すもう 縄跳び 鬼ごっこなど。		
14		(ロールプレイ) 戸外遊び(グループ) 現場実践を想定して		
15	科目のまとめ	基礎知識・技能が習得できているか振り返るとともに、学習のまとめを行う		
16	筆記試験			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
[参考文献] 保育所保育指針 こどもと体育・豊岡短期大学テキスト 表現とこどもの運動 ・豊岡短期大学テキスト		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定: 優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法: レポート、筆記試験 		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 福祉・保育セミナー		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 専任教員	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 60時間(4単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 通年	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 保育士の専門性を高めるため、他分野に渡る経験を積む。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 保育士の専門性をさまざまな経験を通して高める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 体験的な学びを通して保育士としての力量が高まっている。</p>					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	オリエンテーション	ゼミナールの趣旨説明と今後の日程について			
2 ↓ 5	地震体験及び遠足のレクリエーション企画	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄市の防災センターにおいて震度7を体験し、自身の際の心構えなどを学ぶ。 ・体験を通して安全に関する知識を習得する。保育士としてこども達の安全確保に必要な知識を学ぶ。 ・倉敷ダム広場で手作りの弁当を味わうとともに班ごとのレクリエーションを企画する。(校外学習) 			
6	就職ガイダンス	就職に関する基礎知識の学習と進路アンケート実施			
7 ↓ 10	若狭こども園合同遠足	若狭こども園との合同遠足を通して、遠足の企画、安全確認、引率など体験を通して学ぶ。(校外学習)			
13 ↓ 15	漫湖水鳥湿地センター見学	那覇市漫湖水鳥湿地センターを見学し、マングローブ林の役割の理解、くじら公園でレクリエーション活動を行い、遠足の実際を学ぶ。(校外学習)			
16	1年生実習出発式参加	初めての实習に臨む1年制への激励と実習に関するアドバイスをを行う。			
17 ↓ 20	郷土のおやつ作り	保育園でも実施する機会多い餅つき体験、黒糖ぜんざい、ムーチャーを作る。こうした体験を通して、将来現場で作る際に役立てる。また、ムーチャーの由来を知ることで歴史的な背景を交えてこども達に伝えることができる。			
21 ↓ 30	卒業発表会	2年間の学習の集大成である卒業発表会に向けての企画準備を行う。2回のリハーサルを行う。			
〔使用テキスト・参考文献〕		〔単位認定の方法及び基準〕			
〔参考文献〕		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:レポート等提出物 			

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 教育相談		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕	
〔授業の回数〕 15回		〔時間数〕(単位数) 30時間(2単位)		〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 教育現場において不登校、いじめ、発達障害など問題を抱える子どもたちや保護者に対してどのような支援が考えられるのかを授業を通して学び、教育相談の知識を得ること、実践的な対応力をつけることを目的とする。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 理論的なことを講義で学び、事例を交えながら演習を行う。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 カウンセリングマインドを身につけるとともに事例研究を通して具体的な対応力を身につける。</p>					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	授業計画と意義について	教育相談の定義、教育相談を実践する意義を学ぶ。			
2	教育相談の機能について	教育相談のもつ3つの機能を学ぶ。			
3	カウンセリングについて	カウンセリングの基本。各種カウンセリング理論の歴史、特徴と理解。			
4	カウンセリング技法の利用	感情の受容、繰り返し、質問技法、感情の明確化、承認、再保障。非指示的リードについて学ぶ。			
5	心理アセスメントについて	心理アセスメントとは。心理アセスメントの種類と実践について			
6	不登校の理解と対応	不登校の理解と対応			
7	いじめの理解と対応	いじめの本質の理解と早期発見へのとりくみ			
8	いじめの構造といじめへの対応	特別教育とは			
9	特別な配慮を要する子どもの理解と対応	発達障害の特徴と理解、支援 自閉症スペクトラム障害 ADHD LD 発達障害の重複			
10	こどもの精神疾患	乳児期・児童期・思春期の発達課題			
11	乳児期の発達課題	教育相談の担当教師の仕事			
12	校内構築について	カウンセリング、ガイダンス、コンサルティング			
13	他機関との連携	教育相談の担当教師の仕事			
14	教師のメンタルヘルス	教師のメンタルヘルスの現状。			
15	ストレスへの対応	感情労働とは			
〔使用テキスト・参考文献〕 「教育相談」 姫路大学		〔単位認定の方法及び基準〕			
〔参考文献〕		<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物 			

授業概要

【2022年度】

〔科目名〕 こどもの理解と援助		〔授業の種類〕 講義		〔授業担当者〕 仲宗根 由美	
〔授業の回数〕 8回		〔時間数〕(単位数) 15時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 子どもの発達の特徴を理解しながら、保育者はどのように援助し、働きかけをしていくべきかを考える。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 具体的な保育現場の子どもの姿を通して子どもの気持ち汲み取り、理化する力を身に付けることを目的とする。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりに心身の発達や学びを把握することの意義について理解する ・こどもの体験や学びの過程において、こどもを理解する上での基本的な考え方と具体的な方法を理解する ・こどもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について学ぶ 					
コマ数	授業のテーマ		授業の内容		
1	こどもの実態に応じた発達や学びの把握		保育における子ども理解の意義		
2			こどもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開を理解する 子どもに対するかかわりと共感的理解		
3	子どもを理解する視点		保育園での生活や子どもの姿を捉える視点を理解する 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達を学ぶ こどもの相互の関わりと関係づくりについて理解する		
4			子ども同士の関わりや集団生活での経験と育ちについて理解する 発達における葛藤やつまずき		
5	子どもを理解する方法		保育における視察・記録・省察・評価 子ども理解のための職員間の対話 保護者との情報共有の重要性を学ぶ		
6					
7	こどもの理解に基づく発達援助		発達の課題に応じた援助とかかわり 特別な配慮を要する子どもの理解と援助について理解する		
8	発達援助		発達の連続性と就学への支援について学ぶ		
〔使用テキスト・参考文献〕 新基本保育シリーズ10 こどもの理解と援助			〔単位認定の方法及び基準〕		
〔参考文献〕 ちいさいなかま 保育所保育指針 最新保育士養成講座6巻 こどもの発達理解と援助			<ol style="list-style-type: none"> 1. 学則第23条1項(認定基準)に基づく 2. 学則第24条1項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C)69点～60点 4. 評価方法:筆記試験、レポート等提出物 		

授 業 概 要

【2022 年度】

〔科目名〕 こどもと音楽表現 II (声楽)		〔授業の種類〕 演習		〔授業担当者〕 宮城 萌枝	
〔授業の回数〕 30回		〔時間数〕(単位数) 30時間(1単位)		〔配当学科〕 こども未来学科	
				〔配当学年・時期〕 2年次 前期	
〔授業の目的・ねらい〕 保育内容を理解し、弾き歌いや歌唱を通して、音楽表現に関わる技能や知識を習得する。					
〔授業全体の内容の概要〕 弾き歌いは幼児曲を中心に、習熟度に応じた個別指導を行う。 歌唱は、発声練習や合唱曲を練習し、また、実践を意識した弾き歌いの練習やグループ練習、ステージ発表などを取り入れる。					
〔授業修了時の達成課題(到達目標)〕 テンポを保ちながら曲の流れを止めずに弾き歌いができる。 歌詞の意味を理解し、表現豊かに歌うことができる。					
コマ数	授業のテーマ	授業の内容			
1	オリエンテーション	自己紹介、授業概要の説明、理解度チェック(プリント)			
2	楽譜・コードのよみ方	楽譜のよみ方、コードのよみ方、(講義・演奏練習)			
3	コード・スケール	発声練習 コード・スケールの練習(講義・演奏練習)			
4	ドレミの歌	発声練習 ドレミの歌(前半練習)			
5	ドレミの歌	発声練習 ドレミの歌(中間部練習)			
6	ドレミの歌	発声練習 ドレミの歌(後半練習)			
7	ドレミの歌	発声練習 ドレミの歌(全体確認)			
8	Smile	発声練習 Smile 音取り練習			
9	アイアイ	発声練習 アイアイ(前半練習)			
10	アイアイ	発声練習 アイアイ(後半練習)			
11	アイアイ	発声練習 アイアイ(全体確認)			
12	弾き歌い リハーサル	発声練習 ドレミの歌、アイアイ 弾き歌いの試験リハーサル			
13	既習曲の復習	発声練習 ドレミの歌、アイアイ その他の復習(実習に向けて)			
14	既習曲の復習	発声練習 ドレミの歌、アイアイ Smileの復習(実習振り返り)			
15	思い出のアルバム	発声練習 思い出のアルバム(前半練習)			
16	思い出のアルバム	発声練習 思い出のアルバム(後半練習)			
17	思い出のアルバム	発声練習 思い出のアルバム(全体確認)			
18	Smile 曲想づけ	発声練習 ステージプラン計画			
19	ドレミの歌 役割決め	発声練習 ドレミの歌 弾き歌い復習 役割決め			
20	ステージプラン計画	発声練習 ドレミの歌 ステージプラン計画・練習			
21	ドレミの歌 発表	発声練習 ドレミの歌 ステージ練習・発表			
22	アイアイ グループ決め	発声練習 アイアイ 弾き歌い復習 グループ決め			
23	ステージプラン計画	発声練習 アイアイ ステージプラン計画・練習			
24	グループ練習	発声練習 アイアイ グループ練習・発表			
25	アイアイ 発表	発声練習 アイアイ 発表			
26	既習曲 復習	発声練習 既習曲の復習・質問			
27	合唱リハーサル	発声練習 合唱Smile リハーサル 弾き歌い練習			
28	弾き歌いリハーサル	発声練習 弾き歌いリハーサル			
29	試験リハーサル	発声練習 試験リハーサル			
30	試験	試験			
〔使用テキスト・参考文献〕 「うたえる！ひける！ピアノ曲集②」 「ポケットいっぱいのお歌」「Smile」など合唱曲		〔単位認定の方法及び基準〕 1. 学則第 23 条 1 項(認定基準)に基づく 2. 学則第 24 条 1 項(成績の評価)に基づく 3. 評価規定:優(A)100点～80点・良(B)79点～70点・可(C) 69点～60点 4. 評価方法:実技試験			
〔参考文献〕 「おとなのためのテクニックマスター」(コードの読み方)					